

長生き研究を県全体へ

東大との「ジェロントロジー」共同研究3期目突入



高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる社会の実現に向け、医学や社会学など幅広い分野から研究する学問「ジェロントロジー（総合長寿学）」。

平成21年度から東京大学と共同し、モデル地区の坂井市・あわら市で、在宅ケア体制づくりを進めてきました。

今年6月からは、3期目の共同研究を開始。訪問診療を増やすために医師の負担を軽くする仕組みを検討するほか、介護に至る前の心身の活力が低下した状態「フレイル」を防ぐプログラムを全県に広げ、高齢者の自発的な健康づくりを促していきます。

国体・障スポを手話などでサポート

「情報支援ボランティア」研修開始



来年の「福井しあわせ元気」国体・障スポに向け、手話、要約筆記、筆談からなる「情報支援ボランティア」の養成研修会が6月からスタート。登録者約600人が県内5会場に分かれ、5回の研修を受けます。

嶺南の初回研修では、新・県民歌の歌詞を手話で伝える練習に挑戦。真剣な様子で手を動かしていました。

国体・障スポの成功のためには、県民の皆さんの協力が不可欠です。温かいサポートで選手や来場者を迎えましょう。

★運営ボランティア募集については、ふくいインフォ(p.7)参照

女流選手約300人 華やかな熱戦

「全国競技かるた女流選手権大会」開催



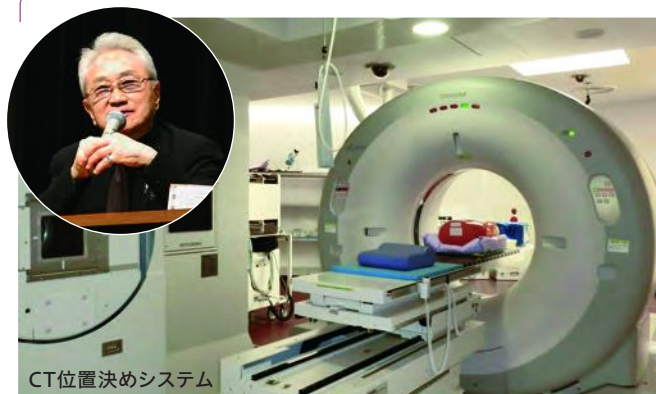
名人位・クイーン位決定戦などと並ぶ競技かるたの4大タイトルの一つ、「全国競技かるた女流選手権大会」が、6月に初めてあわら市で開催されました。

かるたに親しんでもらおうと県が催行したバスツアーには、県内各地の小中学生が参加。大型モニターに生中継される試合を解説付きで観戦したほか、競技会場内では、素早い札さばきを間近で体感しました。

県は引き続き、次世代の育成を図るとともに、トップレベルの選手を多数輩出している「かるた王国福井」として全国に発信していきます。

先進がん治療を県立病院で

なかにし礼さん 陽子線治療の良さを紹介



県立病院にある「陽子線がん治療センター」では、放射線の一種である陽子線を用い、体を切らずにがんを治す「陽子線治療」を受けることができます。

陽子線治療で食道がんを克服した作詞家のなかにし礼さんを招いた講演会を6月に開催。痛みもなく、治療時間は1日約30分だったなど、経験を語りました。

同センターでは、がんの形状に合わせて照射する「積層原体照射システム」と、正確に位置を決める「CT位置決めシステム」を日本で初めて導入しています。治療費の助成などもありますので、ご相談ください。